



《一以》



《玄塵》



《霽晨》

画数の多い書 少ない書

私たちが書作品を鑑賞する時、書かれている文字の画数まで気にすることはほとんどありませんが、少ない画数同士、多い画数同士、あるいは混合する語句の作品化において、作家はどのような工夫をしているのでしょうか。

今回は、それらの少字数作品を展示し、空間に響きが生まれるいくつかのポイントをご紹介します。いつもと少し視点を変えてみることで、作品が秘める美の世界がより広がって見えてくるかもしれません。